

教育ボランティアのススメ その2 『自分を映す鏡を持とう』

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター長
教育ボランティア委員会委員長

田 中 勝

あなたはいつ頃、教師になりたいと思うようになりましたか？

このガイダンスブックを手に行っているみなさんの多くは、「教師になりたい」と考えて山梨大学教育学部に入学してきたことと思います。教職支援室では毎年、学校教育課程1年生から3年生までの全員に個別面談を行い、進路についての聞き取り調査を行っていますが、それによると、山梨大学教育学部1年生の教員志望率は約90%を維持しています。この数字は全国の教員養成系学部・大学の中ではトップクラスと聞いています。山梨大学教育学部には「教師になりたい」という学生が全国から集まっているわけです。入学から卒業までの4年間、「教師になりたい」というモチベーションを維持し、教育実習で豊かな体験を積み、教員採用試験という壁を乗り越えていってほしいと願っています。そのときに、みなさんの意思による教育ボランティア活動への参加と体験は、教育学部での教師をめざす学びを豊かなものとし、教師になったあとの成長を支えていく大きな財産となるに違いありません。

前号（教育ボランティアガイダンスブック 2018）に引き続き、教育ボランティア参加の意義について以下にまとめてみました。参考としてください。

第一に、教師になるために必要な学びは大学の講義や演習だけで十分とは思いません。時間割の中から授業を選んで履修し、卒業に必要な条件を満たせば教師に必要な力が身につくのでしょうか？私はそうは思いません。積極的に教育現場へ出て、子どもたちとふれあい、先生方の仕事（働き方）を観察し、学校現場の抱える課題を、五感をフルに使ってつかみ取ってきてほしいと思います。それが自らの体験知となって将来に役立つし、教員採用試験においては実体験に裏付けられた説得力のある言葉につながっていくからです。

第二に、受入機関の子どもたちは、みなさんがなぜ教育ボランティアをしているのか、その理由をよくわかっていると思います。先生方も、教育ボランティア学生による若いエネルギー（柔軟な発想と行動力）が校内に新しい風を吹かせてくれることを期待し、近い未来に自分たちの仲間となるであろう教育ボランティア学生を全力で応援してくださるはずです。教育ボランティア学生との対話やその姿を見て、「私も、大きくなったら教師になろうかな」と言う子どもが出てくるかもしれません。そうなったらうれしいですね？

第三に、子どもたちの笑顔や先生方のアドバイスが、教師をめざすモチベーションの維持・向上につながると思うからです。教育分野に限らず、モチベーションを維持することはそう簡単なことではありません。学校教育現場には多くの課題があり、教師の働く環境が十分に整備されていないなかで、将来に不安を感じたり、教師としてやっていく自信が持てないという学生も多いかもしれません。人生において進路について悩むのは当然で、時には違う方向へ進みそうになることがあってもおかしくありません。しかし、あまり深く迷い込んでしまうと、出口がわからなくなり、今後の可能性を狭めてしまうことにもなりかねません。そうならないように、自分が今歩んでいる方向は正しいのか、常に自問自答する手段をもつ必要があります。自分自身を映す「鏡」をもち、自分の歩む道を確認してほしいと思います。

教育ボランティア活動による豊かな学びは自分を映す鏡そのものであり、「教師になりたい」というモチベーションの維持や目指す教師像を描くのにはきっと役立つはずです。